

2016年度後半の

MoMAK Films,

9月は同時開催中の展覧会

「あの時みんな熱かった！」

アンフォルメルと日本の美術」と

小企画「キュレトリアル・スタディズ11:

七彩に集った作家たち」

にあわせて、

両企画に共通する

重要作家・岡本太郎の

多彩な魅力に迫る

プログラムを上映します。

また11月には、

印象派の女性画家

メアリー・カサットの

回顧展にあわせて、

日本映画史を代表する

女優の田中絹代による

監督作品を特集し、

女性の視点がとらえた

戦後日本の一様相を

紹介します。

マネキンを型取りする岡本太郎「七彩に集った作家たち」より

09

10  
11

# 岡本太郎 | 関連特集

2016年09月10日(土)、09月11日(日)

岡本太郎は1950年代から1960年代にかけてさまざまな形で映画に関わった。

本プログラムでは、日本映画でカラーフィルムによる作品が増加した1950年代中期にキャラクターのデザインやセットデザインを担当した『宇宙人東京に現わる』(1956)をはじめ、みずから映画に出演した『誘惑』(1957)と『日本脱出』(1964)、そして岡本太郎をモチーフにした「岡本五郎」というキャラクターが登場する『夜の河』(1956)の4本を紹介したい。

09月10日(土) 14:00-15:27 15:40-17:45

## 宇宙人東京に現わる

87分 | 35mm | カラー  
1956(大映東京) 監 | 島耕二 原 | 中島源太郎  
脚 | 小國英雄 補 | 渡辺公夫 美 | 関野重雄  
音 | 大森盛太郎 特殊技術 | 的場徹  
出 | 川崎敬三、河田とよみ、八木沢敏、山形勲、南部彰三、見明凡太郎、永井ミエ子

R星の接近で地球に滅亡の危機が迫ったとき、現われたのはパイラ星人であった。日本初のカラー-SF映画。ヒトデ型の宇宙人や宇宙ステーションのデザイン、そして作品全体の色彩指導に岡本太郎があつたことも話題になった。

## 夜の河

104分 | 35mm | カラー  
1956(大映京都) 監 | 吉村公三郎 原 | 沢野久雄  
脚 | 田中澄江 補 | 宮川一夫  
美 | 内藤昭 音 | 池野成  
出 | 山本富士子、上原謙、小野道子、市川和子、阿井美千子、川崎敬三、小沢栄太郎、東野英治郎、橋公子、山茶花究

吉村公三郎の初カラー作品。色彩心理学を学んだ吉村は、セット、小道具、衣装などの色彩と登場人物の心理を連関させた演出を行った。京染屋の娘・きわ(山本)は、大学教授・竹村(上原)を好きになるが、竹村には妻と娘がいて…

\*『夜の河』の上映開始前に企画担当者が作品の見どころを解説します。  
解説 | 板倉史明



宇宙人東京に現わる



夜の河



誘惑

\*『日本脱出』の上映開始前に企画担当者が作品の見どころを解説します。  
解説 | 北小路隆志

09月11日(日) 14:00-15:34 15:45-17:38

## 誘惑

94分 | 35mm | 白黒  
1957(日活) 監 | 中平康 原 | 伊藤整  
脚 | 大橋幸吉 補 | 山崎善弘  
美 | 松山崇 音 | 黛敏郎  
出 | 千田是也、左幸子、轟夕起子、小沢昭一、葉山良二、戸川いづみ、渡辺美佐子、安井昌二

銀座で画廊を営む男やもめの洋品店主(千田)と、前衛芸術グループに属している一人娘(左)のそれぞれの恋が、中平康のスピーディーな演出によって描かれるコメディ。中盤で、岡本太郎、東郷青児、勅使河原蒼風、徳大寺公英が本人役として出演している。轟夕起子や小沢昭一らの脇役陣の演技も見どころ。

## 日本脱出

93分 | 35mm | カラー  
1964(松竹大船) 監・脚 | 吉田喜重  
補 | 成島東一郎 美 | 芳野伊孝  
音 | 武満徹、八木正生  
出 | 鈴木やすし、桑野みゆき、待田京介、内田良平、坂本スミ子、市原悦子、早野寿郎

この年に行われた東京オリンピックを背景に、貧しさゆえにアメリカへ憧れ、日本脱出を図る青年の破滅を描く。冒頭とエンディングでは岡本太郎の絵画作品がモニター・ジュされ、それを描く岡本本人もわずかに出演している。主人公が発狂するラストが封切時に無断でカットされ、吉田喜重が松竹を退社する原因となった。

11

05  
06

# 女性監督 | 田中絹代 特集

2016年11月05日(土)、11月06日(日)

現代は日本で女性映画監督が数多く活躍しているが、歴史を振り返ると、戦前・戦中には文化映画で活躍した坂根田鶴子(1909-1975)が、そして戦後では1953年から1962年の間に6本の劇映画を監督した田中絹代(1909-1977)がもっとも有名である。本プログラムでは、女性の視点から男女の愛と性を描いた田中絹代の4作品を振り返り、日本映画史の読み直しをはかりたい。

11月05日(土) 14:00-15:42 15:55-17:45

## 月は上りぬ

102分 | 35mm | 白黒  
1955(日活) 監・出 | 田中絹代  
脚 | 小津安二郎、齋藤良輔 補 | 崎重義  
美 | 木村威夫 音 | 齋藤高順  
出 | 笠智衆、佐野周二、山根壽子、杉葉子、北原三枝、三島雅也、安井昌二、増田順二、小田切みき、汐見洋

監督第2作。戦争中に東京から奈良へ疎開してきた父(笠)と3姉妹(山根、杉、北原)の家族を主人公に、3姉妹の恋愛模様が繊細な心理描写によって丁寧に描かれる。東大寺、奈良公園、若草山など、奈良の美しい風景も楽しみのひとつ。小津的なローポジションのショットが散見されるのも興味深い。

## 乳房よ永遠なれ

110分 | 35mm | 白黒  
1955(日活) 監・出 | 田中絹代 原 | 若月彰、中城ふみ子  
脚 | 田中澄江 補 | 藤岡常信 美 | 中村公彦 音 | 齋藤高順  
出 | 月丘夢路、葉山良二、織本順吉、川崎弘子、大坂志郎、安部鶴、森雅之、杉葉子、北原文枝、木室裕子、坪内美詠子、飯田蝶子、左ト全

監督第3作。乳がんのため若くして世を去った薄幸の歌人・中城ふみ子の生涯を、田中澄江が脚色。松竹から移籍した月丘夢路がヒロインをじ、乳がんを患った女性の苦悩や欲望が、女性による脚本と演出によって大胆に描かれる。



月は上りぬ



乳房よ永遠なれ

11月06日(日) 14:00-15:42 15:55-17:27

## 流転の王妃

102分 | 35mm | カラー  
1960(大映東京) 監 | 田中絹代 原 | 愛新覺羅浩  
脚 | 和田夏十 補 | 渡辺公夫  
美 | 関野重雄 音 | 木下忠司  
出 | 京マチ子、船越英二、金田一敦子、東山千栄子、沢村貞子

監督第4作。満洲国皇帝溥儀の弟溥傑に嫁いだ愛新覺羅浩の波乱に富んだ自伝を、和田夏十が脚色し、ヒロイン(役名は呼倫覺羅電子)には京マチ子が扮している。歴史の荒波に翻弄されながらも、夫や子どもとのきずなを胸に、たくましく生きる女性の姿が描かれる。

## 女ばかりの夜

92分 | 35mm | カラー  
1961(東京映画) 監 | 田中絹代 原 | 泉雅子  
脚 | 田中澄江 補 | 中井朝一  
美 | 小島基司 音 | 林光  
出 | 原知佐子、北あけみ、浪花千栄子、千石規子、淡島千景、沢村貞子、富永美沙子、田上和枝、香川京子

田中絹代の5作目の監督作品で、元売春婦たちが社会的な自立を目指して更生を試みるが、彼女らに対する偏見に満ちた社会の現実と直面する…。『彼女たちの中にある人間らしさ、純真なもの』を描き出そうとした(キネマ旬報287号)田中は、実際に更生施設で女性達に取材して撮影に臨んだ。



流転の王妃



女ばかりの夜

NFC所蔵作品選集

# MoMAK

2016.09—11

# FILMS

# MoMAK

# FILMS

NFC所蔵作品選集

2016.09—11

宇宙人東京に現わる

NFC所蔵作品選集

# MoMAK FILMS

Information

上映時間 | 各回14:00-18:00頃 (開場は13:30)

7月15日(金)のみ18:00-上映  
上映作品は予告なく変更場合があります。  
上映作品、各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。  
www.momak.go.jp/films/

料金 | 1プログラム 520円 (当日券のみ)

\*当日に限り、本券でコレクション展もご覧いただけます。

会場 | 京都国立近代美術館 1階講堂

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。  
当日13:30(7月15日のみ17:30)より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売、開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。会場内の飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK)  
東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)



企画協力 | 北小路隆志 (映画評論家 / 京都造形芸術大学准教授)  
板倉史明 (神戸大学大学院准教授)

Exhibition

同時開催中の展覧会

あの時みんな熱かった!

アンフォルメルと日本の美術

会期 | 2016年7月29日(金) - 9月11日(日)

メアリー・カサット展

会期 | 2016年9月27日(火) - 12月4日(日)



女ばかりの夜

2016.09.11 Sep. 11 Nov.

access

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町  
TEL 075 761 4111

www.momak.go.jp



- ・JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・市バス他系統「東山二条・岡崎公園口」または [岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前]下車徒歩約5分
- ・地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

## MoMAK F Column

映画美術と色彩

一般的に、新しい技術が映画界に導入された初期には、新しい技術の特徴を最大限に活用する映画作品が数多く生み出されるものである。映画史を振り返ると、トーキー映画の初期には音の要素にこだわった演出が数多く見られたし、3D映画が導入された初期には、スクリーンから物体が飛び出してくるアクションを強調した演出が頻出した。そして、カラーフィルムが導入された初期にもまた、色彩を前景化して場面の印象や登場人物の感情を暗喩的に表現する演出(ミザンセン)が世界中で実践された。

今回の上映プログラムには、日本における初期のカラーフィルム作品が複数含まれている。日本映画ではじめてカラーフィルムが本格的に長篇劇映画に使用されたのは、1951年に封切られた『カルメン故郷に帰る』(木下恵介監督)である。ただし、実際に多くの日本映画がカラーフィルムで製作されはじめたのは、ようやく1956年から1957年にかけてであった。映画作品におけるセット・小道具・衣装・メイクアップなどの美的な要素を取りまとめるプロダクション・デザイナー(日本では「美術監督」と呼ばれてきた)にとって、白黒フィ

ームからカラーフィルムへの技術的な変化は、映像表現上の大きな意識変革をうながす出来事であった。はじめてカラーフィルムを使って演出をおこなった日本の監督たちは、美術監督やカメラマンと撮影現場で格闘しながら、色彩にこだわった作品を生み出した。吉村公三郎監督の『夜の河』(1956)もその一本であり、「色弱」であることを自覚していた吉村は、色彩心理学を学んだうえで、色彩を演出の一要素として意図的に盛り込んだ。その結果、本作は、セット・衣装・小道具といったプロダクション・デザインの諸要素が、映画作品の演出のなかで本質的な役割をになっており、同時代のハリウッドで活躍したヴァインセント・ミネリやダグラス・サークの作品と同様、メロドラマ的な「過剰さ」が色彩となってあふれだす作品として映画史に記憶される(ちなみに1957年に封切られた五所平之助監督の初カラー作品『黄色いからす』も、児童の色彩心理の知識を応用した興味深い作品である)。

『夜の河』の主人公のふたりは、共に何かを“染める”仕事に従事しており、人物設定のレベルでも色にこだわりをみせている(女性は染色作家、男性はハエを着色して遺伝の実験をする研究者)。なお『夜の河』には、女性主人公を慕う大学生で、画家の「岡本五郎」という人物が登場する。これは明らかに実在の画家・岡本太郎をイメージしたキャラクターであり、実際、映画中の展覧会で飾られて

いる「岡本五郎」の絵画作品は、同時代の岡本太郎の絵をほうふつとさせる原色を使った抽象絵画である(なお、この展覧会の会場の床に描かれているデザインは、美術監督の内容昭が、ハンス・アルプの彫刻をモチーフにして自身で描いたと回想している)。また岡本太郎は、『夜の河』と同年に製作されたSF映画『宇宙人東京に現わる』において、宇宙人「パイラ人」のデザインと作品全体の「色彩指導」を担当した(『宇宙人東京に現わる』の美術監督は、増村保造監督の『盲獣』(1969)において、巨大な“女体セット”を造形した間野茂雄)。岡本太郎は、日本が本格的なカラー映画の時代に入った時にもっとも映画人たちに意識され、必要とされたアーティストのひとりだったといえるだろう。

板倉史明 (神戸大学准教授)